

2022年4月11日

*Cladophialophora bantiana* ならびに関連菌種の学会 HP 用語集への追加記載について (案)

日本医真菌学会用語委員会

## 背景

ゲノム解析ならびに分子系統解析技術の進歩に伴い、真菌症に関わる新種の発見や分類の再編が著しい。これらの研究はグローバル展開されることが基本であり、真菌命名法も明確にされている。一方、日本では、公用文は全て日本語で記述され、各種法令において日本語を用いることが規定されている。また、学校教育においては「国語」として日本語を教授しており、唯一の公用語としての地位を確立している。医療分野においても、各種の規定は日本語で表記されており、疾患名や病原体の名称として日本語表記が求められている。

日本医真菌学会では、2007年に「医真菌関連起因菌の分類と学名に関する小委員会(委員長 鈴木基文)」を組織し、真菌の日本語表記について見解をまとめ、医真菌に対する日本語表記の原則を示した(下記参照)。また、この原則に基づき、汎用されている菌名の学名ならびにカタカナ表記を、医真菌学会 HP に用語集として掲載してきた。現在 HP に掲載している菌名カタカナ表記一覧は、2012年版をもとに作成したものである。このリストの作成は、用語委員会、パブコメ、ならびに理事会審議の各ステップを経て行われている(資料1-3)。

---

## 医真菌に対する日本語表記(和名またはカタカナ表記)の原則(抜粋)

原則1) 学名と対応する日本語表記の存在が求められている以上、ここで決める名称は学名に準ずるものでなくてはならないから、その対応関係を明確にするために学名のカタカナ表記とする。

原則2) カタカナ表記の原則は、学名に対するラテン語の読み方とその慣例を原則とするが、より一般的に通用する読み方があればこれを選択する。

原則3) これまで本学会で慣れ親しんだ名称であって、これがすでに一般化されているものについてはそれを採用する。

原則4) 一般的に通用させるため、カタカナ表記は可能な限り平易なものとする。

---

## *Cladophialophora bantiana* の学名ならびに日本語表記について

*Cladophialophora bantiana* (*C. bantiana*) は、1911年に Guido Banti (イタリア) によって脳膿瘍から分離された黒色酵母である。同菌は 1912年に Pier Andrea Saccardo (イタリア) によって、*Torula bantiana* と命名されている。また、1960年に Borelli によって再分類され、*Cladosporium bantianum* と命名された。一方、Emmons らは、1952年に *C. bantianum* に類似する菌として *Cladosporium trichoides* を報告した。1995年に de Hoog らは *Cladosporium-Xylohypha species* に属する標準菌株ならびに分離

株の系統解析を行い、*Cladophialophora bantiana* と呼ぶことを提案し、下記のように記載している（参考文献1）。

*Cladophialophora bantiana* (Sacc.) de Hoog, Kwon-Chung & McGinnis, comb. nov.

Synonyms:

*Torula bantiana* Sacc. ---Ann Mycol 1912; 10: 320, (basionym).

*Cladosporium bantianum* (Sacc.) Borelli ---Riv Anat Patol Oncol 1960; 17: 620.

*Xylohypha bantiana* (Sacc.) McGinnis, Padhye, Borelli & Ajello ---J Clin Microbiol 1986; 23:1150.

*Cladosporium trichoides* Emmons in Binford et al. ---Am J Clin Pathol 1952; 22: 535.

*Cladosporium trichoides* var. *chlamydosporum* KwonChung ---Mycologia 1983; 75: 320.

*Xylohypha emmonsii* Padhye, McGinnis & Ajello ---J Clin Microbiol 1988; 26: 704.

この記載は、Mycobank 等においても支持されている（参考文献2-6）

我が国においては、*Cladophialophora bantiana* は新興感染症として問題視されはじめており、令和3年2月から、遺伝子組換え実験クラス3の真菌に規定されている（参考文献7）。本菌は、日本医真菌学会HPの菌名カタカナ表記一覧では、*Cladosporium bantianum* として登録されているが、本菌の重要性から、現在の学名である *Cladophialophora bantiana* に変更する必要がある。

### C. *bantiana* の菌名カタカナ表記一覧への追加記載の提案

これらの状況を鑑み、本菌をHP菌名カタカナ表記一覧に以下のように記載することを提案する。

1. 正名である *Cladophialophora bantiana* を追加し、その日本語表記を、原則に基づき「クラドフィアロフォラ・バンティアナ」とする。
2. *Cladosporium bantianum* は、synonym として現在も汎用されていることから、削除せず (*C. bantiana* の synonym と付記する)。但し、カタカナ表記は正名のみが付与することとする。
3. HP掲載の「主要医真菌学名のカタカナ表記」一覧の脚注に、「医真菌に対する日本語表記（和名またはカタカナ表記）の原則」に基づき作成されたものである、と付記するとともに原則（抜粋）を記載する。

### 補足

本菌の学名は de Hong により提案されたことにより、汎用されてきた *Cladosporium bantianum* はシノニムに位置づけられた。学会HP菌名カタカナ表記一覧では、クラドスポリウム・バンチアナムと記載してきたが、研究者によってはクラドスポリウム・バンチアナムと表記している。冒頭に示した医真菌に対する日本語表記（和名またはカタカナ表記）の原則に記載したように、原則1~4のいずれによるかで「ゆれ」る余地がある。カタカナ表記の「ゆれ」は他の菌でも認められている（資料4）。本提案においては、学会HP菌名カタカナ表記は学名のみが付与することとし、synonym は学名のみを表記することに留めることとする。

具体的には、下記のように表記することとする。

<i>Cladophialophora bantiana</i>	クラドフィアロフォラ・バンティアナ
(synonym: <i>Cladosporium bantianum</i> )	
(synonym: <i>Cladosporium trichoides</i> )	
<i>Cladophialophora carrionii</i>	クラドフィアロフォラ・カリオニー
(synonym: <i>Cladosporium carrionii</i> )	

#### 参考文献

- 1) G S de Hoog 1, E Guého, F Masclaux, A H Gerrits van den Ende, K J Kwon-Chung, M R McGinnis, Nutritional physiology and taxonomy of human-pathogenic *Cladosporium-Xylohypha* species, J Med Vet Mycol. 33, 339-47, 1995.
- 2) H. Badali, C. Gueidan, M.J. Najafzadeh, A. Bonifaz, A.H.G. Gerrits van den Ende and G.S. de Hoog, Biodiversity of the genus *Cladophialophora*, Studies in Mycology 61, 175-191. 2008.
- 3) A. Chakrabarti, H. Kaur, SM. Rudramurthy, SB. Appannanavar, A. Patel, KK. Mukherjee, A. Ghosh and U. Ray, Brain abscess due to *Cladophialophora bantiana*: a review of 124 cases, Medical Mycology, 54, 111-119, 2016,
- 4) *Cladophialophora bantiana* - Wikipedia
- 5) *Cladophialophora bantiana* - Mycobank
- 6) *Cladosporium bantianum* - Mycobank
- 7) 研究開発等に係る遺伝子組換え生物等の第二種使用等に当たって執るべき拡散防止措置等を定める省令の規定に基づき認定宿主バクテリア系等を定める件（平成16年文部科学省告示第7号）文部科学省  
[https://www.lifescience.mext.go.jp/files/pdf/n648\\_02.pdf](https://www.lifescience.mext.go.jp/files/pdf/n648_02.pdf)

#### 委員

大野尚仁（委員長）、石橋健一、梅山隆、大野秀明、加納壘、木村雅友、佐藤友隆、豊留孝仁、浜田幸宏、矢口貴志、山田剛（以上11名、五十音順、敬称略）

※パブリックコメントは医真菌学会事務局（kaiin@jsmm.org）へお寄せください。

期限：2022年4月12日（火）～5月13日（金）